

Ⅲ. 十二弟子の派遣 ← 三回目のメシア的奇跡で指導者層のメシア拒否の姿勢を再確認

□アウトライン

1. イントロダクション マタ 9：35～10：4、マコ 6：6b～7、ルカ 9：1～2
2. 派遣についての指示 マタ 10：5～15、マコ 6：8～11、ルカ 9：3～5
3. 迫害を念頭においての指示 マタ 10：16～23
4. 迫害されても恐れるな マタ 10：24～33
5. イエスを拒否した結果、イスラエル民族はどういう状態になるのか マタ 10：34～39
6. 弟子たちを受け入れた人が受ける報い マタ 10：40～42
7. 派遣 マタ 11：1、マコ 6：12～13、ルカ 9：6

-
1. イントロダクション マタ 9：35～10：4、マコ 6：6b～7、ルカ 9：1～2

マタイ 9：35～36 それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やされた。また、群衆を見て深くあわれまれた。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。

- イエスは指導者層からの拒否を受けてからも、町々を巡り、安息日には会堂で教え、御国の福音を宣べ伝えた。その内容は、「奥義としての神の国」である。
- 指導者層がイエスをメシアではないと判定したことで、イスラエルの民衆は、指導者層に従うべきか、イエスを信じるべきか、迷い疲れる状態に陥った。イエスはそういう人々を見て深くあわれまれた。
- このイエスの憐れみが、十二弟子派遣の動機である。

マタイ 9：37～38 そこでイエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」

- 弟子たち=12人の使徒たち。使徒の選任は、すでに、「山上の垂訓」の前で。(マコ 3：13～19、ルカ 6：12～16)
- 収穫は多い：収穫とは、イスラエルの残れる者(レムナント)、真の信仰者たち。イスラエル民族全体の中では、残りの者、少数者であるが、割合として少数なのであって、人数は多い。
- 収穫の主、ご自分の収穫：真の信仰者を起こすのは、主のみわざである。弟子たちはそのための働き手である。
- 働き手を送ってくださるように祈りなさい：働き手になる者は、まず、この祈りをする。そして、自ら喜んで、その祈りの答えになる。

マタイ 10：1～4 イエスは十二弟子を呼んで、汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やすためであった。十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、熱心党のシモンと、イエスを裏切ったイスカリオテのユダである。

- 十二使徒には、悪霊を追い出す権威と、病を癒やす権威が与えられた。
- バルトロマイ＝タルマイの子。ナタナエル（ヨハネ 1：45）
- タダイ＝「アルパヨの子ヤコブ」の弟で、本名は「ユダ」。
ルカ 6：16「ヤコブの子ユダ」と訳されているが、直訳は「ヤコブのユダ」、
「の」は兄弟関係を示すこともある。英語訳は「ヤコブの兄弟ユダ」

マルコ 6：6b～7 それから（郷里ナザレで2度目の拒否を受けてから）イエスは、近くの村々を巡って教えられた。また、十二人を呼び、二人ずつ遣わし始めて、彼らに汚れた霊を制する権威をお授けになった。

2. 派遣についての指示 マタ 10：5～15、マコ 6：8～11、ルカ 9：3～5

(1) 行先の制限

マタイ 10：5～6 イエスはこの十二人を遣わす際、彼らにこう命じられた。「異邦人の道に行ってははいけません。また、サマリヤ人の町に入ってははいけません。むしろ、イスラエルの家の失われた羊たちのところに行きなさい。

- イスラエルの家の失われた羊たち＝イスラエルの残れる者（レムナント）。少数ではあるが真の信仰者たち。この時期においては、イエスをメシアとして信じる人々。

(2) 任務

マタイ 10：7～8 行って、『天の御国は近づいた』と宣べ伝えなさい。病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツァラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出さなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。

- 天の御国は近づいた・・・指導者層の拒否により、神の国の福音は「メシアの王国」から「奥義としての神の国」に変わったことを伝える

(3) 旅行費用や着替えの準備は不要

マタイ 10：9～10 胴巻に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはいけません。袋も二枚目の下着も履き物も杖も持たずに、旅に出なさい。働く者が食べ物を得るのは当然だからです。

- これは、イエスが地上にいる間の限定的な命令（参照 ルカ 22：35～38）

(4) レムナントをさがす

マタイ 10:11~12 どの町や村に入っても、そこでだれがふさわしい人かをよく調べ、そこを立ち去るまで、その人のところにとどまりなさい。その家に入るときには、平安を祈るあいさつをしなさい。

マタイ 10:13~15 その家がそれにふさわしければ、あなたがたの祈る平安がその家に来るようにし、ふさわしくなければ、その平安があなたがたのところに戻って来るようにしなさい。

(5) その町にレムナントがいなければ・・・

マタイ 10:14~15 だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落しなさい。まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。

- 足のちりを払い落とす・・・その町の人々にさばきが下ることを示す
- さばきの日・・・異邦人の町であるソドムやゴモラよりも重いさばきが下るとあるので、このさばきは、最終的なさばき、火の池につながる裁きである。

3. 迫害を念頭においての指示 マタ 10:16~23

(1) 近い将来、使徒たちは迫害を受ける。権力者たちの前に引き出されたときに、何を話すのかは心配しなくてよい、聖霊が語らせてくださるから。

マタイ 10:16~20 いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを地方法院に引き渡し、会堂でむち打ちます。また、あなたがたは、わたしのために総督たちや王たちの前に連れて行かれ、彼らと異邦人に証しをすることになります。人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。

(2) イスラエルの家々では、家族が分裂し、互いに争う時代になる。また、イエスをメシアとして証しする使徒たちは、人々から憎まれる。しかし、信者たちが最後まで耐え忍ぶなら、メシア拒否をしたこの世代に下る神のさばき（紀元70年のエルサ

レム崩壊）から救われて、身体的な生命を落とさずにすむであろう。

マタイ 10：21～22 兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち、死に至させます。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、**最後まで耐え忍ぶ人は救われます。**

- (3) 今回の派遣で、ある町で迫害を受けたら、すぐに別の町に行く。時間は限られていて、弟子たちがイスラエルの町々を巡り終えることはできない。

マタイ 10：23 一つの町で人々があなたがたを迫害するなら、別の町へ逃げなさい。まことに、あなたがたに言います。人の子が来るときまでに、あなたがたがイスラエルの町々を巡り終えることは、決してありません。

- 人の子が来るときまでに：イエスが十字架にかかるためにエルサレムに来るときまでに

4. 迫害されても、恐れるな マタ 10：24～33

- (1) 師であるイエスが悪霊につかれた者と言われるくらいなら、弟子たちはもっとひどい呼び方をされるはずである。拒否されたり、迫害されたりすることを覚悟せよ。（マタイ 10：24～25）
- (2) 迫害する者たちを恐れてはならない。本当に恐れるべきお方は、神だけである。（マタイ 10：26～31）
- (3) 人前でイエスを知らないと言う者は、イエスも天の父の前で、その人を知らないと言う→紀元70年のエルサレム崩壊に巻き込まれて、身体的な生命を落とすことになる。

マタイ 10：32～33 ですから、だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、**人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも、天におられるわたしの父の前で、その人を知らないと言います。**

- これは、メシア拒否をした世代に属するユダヤ人信者に対する警告。メシア拒否は「聖霊を冒瀆する罪」とも呼ばれ、あの世代が犯した特別な罪。それに対するさばきは、紀元70年のエルサレム崩壊。あの世代に属するユダヤ人信者たちに、神のさばきに巻き込まれないように、という警告である。

5. イエスを拒否した結果、イスラエル民族はどういう状態になるのか マタ 10：34～39

- (1) イスラエルには平和ではなく、争いがもたらされる。家族の間で分裂と争いが繰り返される。(マタイ 10：34～36)
- (2) メシア拒否した世代に属するユダヤ人信者が覚悟すべきこと(マタイ 10：37～39)

37 節 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。
わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。

- 信者として歩むことよりも、イエスを信じない家族との関係維持を優先するようでは、ふさわしい人(レムナント)とは言えない。

38 節 自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。

- 自分の十字架を負って・・・人々がイエスに投げつけた嘲りや侮辱を、同じように自分も受ける

39 節 自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。

- 自分のいのちを得る者＝迫害を避けて、イエスを信じるという信仰を表明せず、死を免れる信者
- それを失う＝紀元 70 年のエルサレム崩壊に巻き込まれて、身体的な生命を落とすことになる(ただし、信者なので、救いを失うことはない。永遠のいのちは受けており、復活して神の国に入ることはできる。)
- わたしのために自分のいのちを失う者＝イエスを信じるという信仰を表明したために迫害を受けて死ぬ信者
- それを得る＝復活して、再び体を得る。髪の毛一本も失われることはない(参照 ルカ 21：18)。加えて、キリストの裁きの座の前に立つとき、報奨の冠を受ける(II コリ 5：10、I コリ 9：25、3：11～15)。

6. 弟子たちを受け入れた人が受ける報い マタ 10：40～42

- (1) 十二弟子が派遣されて行った先で、彼らを受け入れる人は、イエスを受け入れるのである。イエスを受け入れるというのは、イエスを遣わした父なる神を受け入れるのである。

マタイ 10：40～41 あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。預言者を預言者だからということで受け入れる人は、預言者の受ける報いを受けます。また、義人を義人だからということで受け入れる人は、義人の受ける報いを受けます。

- (2) 十二弟子はまだその理解は不十分で「小さい者たち」であるが、その弟子たちを受け入れて、一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはない。

マタイ 10：42 まことに、あなたがたに言います。わたしの弟子だからということで、この小さい者たちの一人に一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはありません。」

7. 派遣 マタ 11：1、マコ 6：12～13、ルカ 9：6

マタイ 11：1 イエスは十二弟子に対する指示を終えると、町々で教え、宣べ伝えるために、そこを立ち去られた。

マルコ 6：12～13 こうして十二人は出て行って、人々が悔い改めるように宣べ伝え、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人を癒やした。

- 悔い改める・・・洗礼者ヨハネやイエスが宣教開始時に「悔い改めよ（考えを変えよ）」と言ったのは、イスラエル民族全体に考え方の転換を求める宣言であった。これに対して、十二弟子派遣時の「悔い改めよ」は、民族全体ではなく、イスラエルの個々人に対して、「考えを変えなさい」である。イエスを悪霊につかれておかしくなっている男という見方を変えて、イエスをメシアとして認めよ、というメッセージ。

ルカ 9：6 十二人は出て行って、村から村へと巡りながら、いたるところで福音を宣べ伝え、癒やしを行った。